

# 参加者のこえ

～令和3年中の大学生対象インターンシップ参加者から寄せられた感想を一部紹介します～

## 【K 大学 3回生 S.T さん】

一人の警察官として諦めない姿勢が何より大切であることを知るとともに、「難しさ」を3日間の様々な体験を通じて感じた。逮捕術や教練を通じて「耐える力」をより身につけたいと思った。警察官は話術も大切と知り、今後は自分の興味のあることに加え、幅を広げて「学ぶ」「体験する」ということを、残りの学生生活で行いたい。

## 【D 大学 3回生 S.M さん】

体験を通じてコミュニケーション能力の重要性も感じた。捜査書類作成や職務質問など、様々な場面でその力が必要だった。黙ってしまい変な間を作らない、どんな相手でも合わせられる話題を作るなど、やらなければならないこと、考えることが多いことが大変だった。

## 【R 大学 3回生 S.I さん】

仲間と協力し合うことや仲間を信頼することの大切さに気づいた。普段、仲間と協力するという環境にいることが少ないので、戸惑いしかなかったが、実習を通じて「信頼することは自分から行動すれば簡単にできる」ということを学んだ。信頼があって、仕事での連携や職場の雰囲気成り立つと考えた。

## 【K 大学 3回生 H.K さん】

人を守る仕事に就く志望動機として、はじめは「ありがとうと言われたい」「社会を守りたい」と考えていた。しかし、被害者の方に寄り添って、その気持ちを形に変え、事件を解決するんだという気持ちを持つことが大切と学んだ。将来社会人になるときに、責任と社会の常識を持って行動できるよう、実習で学んだ厳しい内容を学生生活に反映させたい。

## 【K 大学 3回生 K.T さん】

警察官という職業の厳しさと楽しさを学ぶことができたが、「かっこいい」という甘い考えでは務まらないという厳しさを肌で感じる一方、毎日のように一緒に必死で努力する同期と警察学校を卒業した後に現場に出て、県民や被害者の方に寄り添い守っていくことのやりがいを想像することができた。

## 【O 大学 3回生 R.M さん】

体力面・学習面を鍛えることはもちろん大切だと思ったが、どの警察官も時間や態度のことを第一に注意されていたので、組織で働くことや、集団で生活する上で決まり事を徹底する重大さを学んだ。普段の生活、警察官になるため、警察官になっていから、それぞれの段階で大切なことを多く学べた。

## 【K 大学 3回生 R.G さん】

実習に参加するまでは自分の「正義感」であれば警察官になってもなんとかやっつけていけるだろうと甘く考えていた。実習を終えて多くの力が不足していることを実感した。冷静さや周りを観察する力、話をしっかり聞く力など多くの能力が必要であると感じ、今後の学生生活で足りない力を少しでも伸ばしていこうと考えた。



**HYOGO PREFECTURAL POLICE  
INTERNSHIP**

